

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）			担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	実技		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱曲の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。 【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲の設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズ（１）
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズ（２）、各自の練習曲の読譜
第4回	基本的な演奏技術のエクササイズ（３）、各自の練習曲の読譜
第5回	基本的な演奏技術の確認のための発表・各自の練習曲の読譜
第6回	各自の練習曲の演奏（１）読譜のチェック
第7回	各自の練習曲の演奏（２）楽曲分析
第8回	各自の練習曲の演奏（３）演奏表現
第9回	各自の練習曲の演奏（４）暗譜・伴奏曲の読譜
第10回	各自の練習曲の演奏（５）仕上げ・伴奏曲の読譜
第11回	各自の練習曲の成果発表、グループ討論・伴奏曲の読譜
第12回	伴奏法（１）楽曲分析
第13回	伴奏法（２）演奏表現
第14回	伴奏法（３）伴奏合わせ
第15回	伴奏曲の発表・総括

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3 上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
全訳ハノンピアノ教本	平尾妙子	全音楽譜出版社	978-4-11-104010-0	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分	実技		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱曲の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。 【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲の設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズ（１）
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズ（２）、各自の練習曲の読譜
第4回	基本的な演奏技術のエクササイズ（３）、各自の練習曲の読譜
第5回	基本的な演奏技術の確認のための発表・各自の練習曲の読譜
第6回	各自の練習曲の演奏（１）読譜のチェック
第7回	各自の練習曲の演奏（２）楽曲分析
第8回	各自の練習曲の演奏（３）演奏表現
第9回	各自の練習曲の演奏（４）暗譜・伴奏曲の読譜
第10回	各自の練習曲の演奏（５）仕上げ・伴奏曲の読譜
第11回	各自の練習曲の成果発表、グループ討論・伴奏曲の読譜
第12回	伴奏法（１）楽曲分析
第13回	伴奏法（２）演奏表現
第14回	伴奏法（３）伴奏合わせ
第15回	伴奏曲の発表・総括

事前学修		各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修		各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
全訳ハノンピアノ教本	平尾妙子	全音楽譜出版社	978-4-11-104010-0	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）			担当教員	鷺見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分	実技		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱曲の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。 【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲の設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズ（１）
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズ（２）、各自の練習曲の読譜
第4回	基本的な演奏技術のエクササイズ（３）、各自の練習曲の読譜
第5回	基本的な演奏技術の確認のための発表・各自の練習曲の読譜
第6回	各自の練習曲の演奏（１）読譜のチェック
第7回	各自の練習曲の演奏（２）楽曲分析
第8回	各自の練習曲の演奏（３）演奏表現
第9回	各自の練習曲の演奏（４）暗譜・伴奏曲の読譜
第10回	各自の練習曲の演奏（５）仕上げ・伴奏曲の読譜
第11回	各自の練習曲の成果発表、グループ討論・伴奏曲の読譜
第12回	伴奏法（１）楽曲分析
第13回	伴奏法（２）演奏表現
第14回	伴奏法（３）伴奏合わせ
第15回	伴奏曲の発表・総括

事前学修		各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修		各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせて30、40、50番のいずれかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
全訳ハノンピアノ教本	平尾妙子	全音楽譜出版社	978-4-11-104010-0	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ			担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。また伴奏については、歌唱曲、合唱曲の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲を設定
第2回	J.S.バッハの作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	J.S.バッハの作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	J.S.バッハの作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	J.S.バッハの作品の演奏（４）演奏表現①・伴奏曲の読譜
第6回	J.S.バッハの作品の演奏（５）演奏表現②・伴奏曲の読譜
第7回	J.S.バッハの作品の演奏（６）暗譜・伴奏曲の読譜
第8回	J.S.バッハの作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	J.S.バッハの作品のクラス内弾きあい会
第10回	J.S.バッハの作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（１）読譜のチェック
第12回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（２）楽曲分析・伴奏合わせ
第13回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（３）演奏表現・伴奏合わせ
第14回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（４）仕上げ・伴奏合わせ
第15回	各自で選曲した伴奏曲の成果発表・総括

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。また伴奏については、歌唱曲、合唱曲の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲を設定
第2回	J.S.バッハの作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	J.S.バッハの作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	J.S.バッハの作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	J.S.バッハの作品の演奏（４）演奏表現①・伴奏曲の読譜
第6回	J.S.バッハの作品の演奏（５）演奏表現②・伴奏曲の読譜
第7回	J.S.バッハの作品の演奏（６）暗譜・伴奏曲の読譜
第8回	J.S.バッハの作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	J.S.バッハの作品のクラス内弾きあい会
第10回	J.S.バッハの作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（１）読譜のチェック
第12回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（２）楽曲分析・伴奏合わせ
第13回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（３）演奏表現・伴奏合わせ
第14回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（４）仕上げ・伴奏合わせ
第15回	各自で選曲した伴奏曲の成果発表・総括

事前学修		各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修		各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ			担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。また伴奏については、歌唱曲、合唱曲の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲を設定
第2回	J.S.バッハの作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	J.S.バッハの作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	J.S.バッハの作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	J.S.バッハの作品の演奏（４）演奏表現①・伴奏曲の読譜
第6回	J.S.バッハの作品の演奏（５）演奏表現②・伴奏曲の読譜
第7回	J.S.バッハの作品の演奏（６）暗譜・伴奏曲の読譜
第8回	J.S.バッハの作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	J.S.バッハの作品のクラス内弾きあい会
第10回	J.S.バッハの作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（１）読譜のチェック
第12回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（２）楽曲分析・伴奏合わせ
第13回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（３）演奏表現・伴奏合わせ
第14回	各自で選曲した伴奏曲の演奏（４）仕上げ・伴奏合わせ
第15回	各自で選曲した伴奏曲の成果発表・総括

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ			担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ知識、演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品ついて、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、連弾については、共演者の音を意識して聴く力、共演者の演奏に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。取り組む作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、伴奏、連弾のどちらかを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習成果を確認、各自の課題曲を設定
第2回	古典派の作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	古典派の作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	古典派の作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	古典派の作品の演奏（４）演奏表現①、伴奏・連弾曲の読譜
第6回	古典派の作品の演奏（５）演奏表現②、伴奏・連弾曲の読譜
第7回	古典派の作品の演奏（６）暗譜、伴奏・連弾曲の読譜
第8回	古典派の作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	古典派の作品のクラス内弾きあい会
第10回	古典派の作品の実技発表・グループ討論
第11回	伴奏・連弾曲の演奏（１）伴奏・連弾の説明
第12回	伴奏・連弾曲の演奏（２）楽曲分析
第13回	伴奏・連弾曲の演奏（３）演奏表現
第14回	伴奏・連弾曲の演奏（４）仕上げ
第15回	伴奏・連弾の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ			担当教員	小見山 純一
単位	1単位	講義区分	演習	ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ知識、演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品ついて、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、連弾については、共演者の音を意識して聴く力、共演者の演奏に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。取り組む作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、伴奏、連弾のどちらかを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】				

授業計画	
第1回	今までの学習成果を確認、各自の課題曲を設定
第2回	古典派の作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	古典派の作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	古典派の作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	古典派の作品の演奏（４）演奏表現①、伴奏・連弾曲の読譜
第6回	古典派の作品の演奏（５）演奏表現②、伴奏・連弾曲の読譜
第7回	古典派の作品の演奏（６）暗譜、伴奏・連弾曲の読譜
第8回	古典派の作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	古典派の作品のクラス内弾きあい会
第10回	古典派の作品の実技発表・グループ討論
第11回	伴奏・連弾曲の演奏（１）伴奏・連弾の説明
第12回	伴奏・連弾曲の演奏（２）楽曲分析
第13回	伴奏・連弾曲の演奏（３）演奏表現
第14回	伴奏・連弾曲の演奏（４）仕上げ
第15回	伴奏・連弾の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ			担当教員	市野 啓子
単位	1単位	講義区分	演習	ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ知識、演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品について、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、連弾については、共演者の音を意識して聴く力、共演者の演奏に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。取り組む作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、伴奏、連弾のどちらかを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】				

授業計画	
第1回	今までの学習成果を確認、各自の課題曲を設定
第2回	古典派の作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	古典派の作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	古典派の作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	古典派の作品の演奏（４）演奏表現①、伴奏・連弾曲の読譜
第6回	古典派の作品の演奏（５）演奏表現②、伴奏・連弾曲の読譜
第7回	古典派の作品の演奏（６）暗譜、伴奏・連弾曲の読譜
第8回	古典派の作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	古典派の作品のクラス内弾きあい会
第10回	古典派の作品の実技発表・グループ討論
第11回	伴奏・連弾曲の演奏（１）伴奏・連弾の説明
第12回	伴奏・連弾曲の演奏（２）楽曲分析
第13回	伴奏・連弾曲の演奏（３）演奏表現
第14回	伴奏・連弾曲の演奏（４）仕上げ
第15回	伴奏・連弾の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ			担当教員	村田 睦美
単位	1単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏、伴奏、アンサンブルの中から自分で一つの分野を選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、分野を設定
第2回	ロマン派以降の作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	ロマン派以降の作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	ロマン派以降の作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	ロマン派以降の作品の演奏（４）演奏表現①・アンサンブル等の読譜
第6回	ロマン派以降の作品の演奏（５）演奏表現②・アンサンブル等の読譜
第7回	ロマン派以降の作品の演奏（６）暗譜・アンサンブル等の読譜
第8回	ロマン派以降の作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	ロマン派以降の作品のクラス内弾きあい会
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（１）それぞれの基礎知識
第12回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（２）楽曲分析
第13回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（３）演奏表現
第14回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（４）仕上げ
第15回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの成果発表・総括

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業時に適宜指定する	なし	なし	なし	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ			担当教員	小見山 純一
単位	1単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏、伴奏、アンサンブルの中から自分で一つの分野を選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、分野を設定
第2回	ロマン派以降の作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	ロマン派以降の作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	ロマン派以降の作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	ロマン派以降の作品の演奏（４）演奏表現①・アンサンブル等の読譜
第6回	ロマン派以降の作品の演奏（５）演奏表現②・アンサンブル等の読譜
第7回	ロマン派以降の作品の演奏（６）暗譜・アンサンブル等の読譜
第8回	ロマン派以降の作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	ロマン派以降の作品のクラス内弾きあい会
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（１）それぞれの基礎知識
第12回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（２）楽曲分析
第13回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（３）演奏表現
第14回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（４）仕上げ
第15回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの成果発表・総括

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業時に適宜指定する	なし	なし	なし	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ			担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏、伴奏、アンサンブルの中から自分で一つの分野を選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、分野を設定
第2回	ロマン派以降の作品の演奏（１）選曲・基本的な演奏技術のエクササイズ
第3回	ロマン派以降の作品の演奏（２）読譜・基本的な演奏技術のエクササイズ
第4回	ロマン派以降の作品の演奏（３）楽曲分析・基本的な演奏技術のエクササイズ
第5回	ロマン派以降の作品の演奏（４）演奏表現①・アンサンブル等の読譜
第6回	ロマン派以降の作品の演奏（５）演奏表現②・アンサンブル等の読譜
第7回	ロマン派以降の作品の演奏（６）暗譜・アンサンブル等の読譜
第8回	ロマン派以降の作品の演奏（７）仕上げ・基本的な演奏技術の確認
第9回	ロマン派以降の作品のクラス内弾きあい会
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（１）それぞれの基礎知識
第12回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（２）楽曲分析
第13回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（３）演奏表現
第14回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの演奏（４）仕上げ
第15回	各自で選択したピアノ独奏・伴奏・アンサンブルの成果発表・総括

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業時に適宜指定する	なし	なし	なし	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			